

# 歴史の扉

1995

第2号

(財) 広島市歴史科学教育事業団 文化財課



黒谷遺跡 (佐伯区五日市町石内)

あっ火事だ!?

特集・弥生時代の火災



末光B地点遺跡 (安佐北区落合南三丁目)



小林B地点遺跡 (佐伯区五日市町口和田)



およそ  
1700~1800年前の  
弥生時代後期の  
ある日のできごと...

弥生新聞 2××年 ○月×日△曜日 ×22××号(日刊)

# 住宅一軒炎上!!

## 黒谷で火災

×日、石内の黒谷ムラで住宅一軒が炎上した。火災は木造竪穴式住宅で発生、約二十六平方メートルを焼いた。出火の原因については、今のところ明らかでない。



▲ 小さい掘りこみの方が焼けた住居跡。材木が焼けてできた炭や土器が残っていました

# 弥生新聞

こんな新聞記事が頭にうかんでくるような発見がありました。佐伯区五日市町石内の黒谷遺跡で弥生時代後期に焼け落ちた竪穴式住居跡が見つかったのです。



土の中で普通はくさってしまう材木も、炭になるとそのまま残ります。そのため住居跡に残った炭は、どこに使った材木であるかなど住居の構造を知る手がかりとなります。また、炭を調べると木の種類もわかります。黒谷遺跡はツブラジイなどシイノキの仲間でした。おそらく、近くの林から切り倒して持ってきたのでしょう。



▲ 復元した竪穴式住居 (佐伯区石内公民館)  
炭となった材木は住居を復元する時の大きな手がかりです

## 突撃インタビュー

弥生時代におきた火事の原因は？  
調査員さんに聞いてみました

「黒谷遺跡のように火事で焼けた家は他からも見つかるんですか？」

「そうですね、各地で見つかっていますよ。広島市内でも10軒以上は見つかっていますね」

「火事の原因は何だったのでしょうか」

「うーん、なかなか決め手

になる手がかりがないのでハッキリしないんですよ。

でも、弥生時代におきた火事も今と同じように火の不始末や放火されたことなどがあつたでしょうね」

「いったい何が手がかりになるんですか？」

「材木が焼けてできた炭や土器などの残りぐあいですけど」

「土器もですか？」

「ええ、焼け跡から土器が

使っていた時のままの姿で見つかることがありますから、それはきっと突然の火事で何も持たずに逃げ出したんでしょうね。でも、焼け跡のなかには土器がまったく残っていないものもあるんですよ」

「そういった場合は…？」

「おそらく、火事の前あらかじめ荷物を運び出したんでしょうね」

「ということは、火事になるこ

とがわかっていたんですか？」

「不思議ですね。その場合は住んでいた人がわざと火をつけて焼いたことも…」

「え〜っ!!自分の家を焼いたんですかー？」

「そうなんですよ。伝染病とか、なにか人々がおそれるような事件がおこった時に家を焼くこともあったと考える考古学者もいるんですよ」



▲ 城ノ下A地点遺跡 (佐伯区五日市町口和田) の焼けた家の跡  
ここには6個の土器が残っていました。突然の火事で持ち出せなかったのでしょうか…



つわもの  
「強者どもが夢のあと」 串山城遺跡

佐伯区五日市町石内

串山城遺跡からは弥生時代のムラの跡と室町時代の山城の跡が見つかりました。特に、山城の跡は、細長くのびた山の地形に深い溝を掘ったり、斜面を急な角度にけずったりして、攻め手の攻撃を防ぐように様々な工夫がこらされています。



## 「弥生ムラの大きな家」 黒谷遺跡

佐伯区五日市町石内

特集で取り上げた黒谷遺跡は谷を見おろす小高い山の上にあります。ここからは市内の平均的な竪穴式住居跡の倍ほどもある直径7～10m程度の住居跡が3つ見つかりました。これほど大きな住居は、ただ単に住むためでなく特別な使い道があったのかもしれない。



## 「ここでも火事が？」 寺山遺跡

安佐南区山本七丁目

寺山遺跡は太田川右岸に開けた平野を見おろす見晴らしのよい山の上にあります。ここからは弥生時代の竪穴式住居跡が見つかりました。この住居も火事で焼けたようで、材木が焼けてできた炭が出てきました。また、古墳時代の大小いくつかの墓も見つかりました。



## 「モグラ調査隊がゆく」 広島城外堀遺跡

中区西白島町

西白島の城北駅北交差点では広島城の外堀跡の発掘を行いました。ここではいったん道路を掘り下げた後、自動車を通れるようにおおいをかけて調査を行っています。頭上を自動車が行き交う現場からは、外堀の石垣や堀に水を引き入れるための水路が姿を現しました。